

# 論文

第1回

「よそ者」のパワー・アニメ聖地巡礼現象に見る  
新たな地域づくりの可能性

## よそ者と関係人口

### ■アニメと地域の素敵な出会い？

表題を見た読者の多くは、少し驚きを感じたかもしれない。おそらくそれは、本誌『まちむら』の掲載論文としては、一見して似つかわしくない用語が登場しているからである。それは「アニメ」であることは間違いない。

では、次のような出来事を紹介しよう。

静岡県沼津市の自治会が「海岸愛護月間」に合わせて開催する海岸清掃作業に、あるアニメファンがボランティアとして参加した。その翌年、SNSで自治会の清掃活動とコラボする形で、自らSNSを通じてボランティアを組織化する呼びかけを行った。そのファンは、次のように

気持ちを吐露している。

「何度も沼津に足繁く通い／美味しい海の幸や山の幸／美味しい飲み物やお酒を／それはそれはたらふく食べた／それだけではなく／地域の人々ともよく交流し／ときに笑い／ときに泣いたそうなの／こんなにも美味しいモノを食べさせて貰えて／こんなにも暖かく迎えて下さる沼津市に何か恩返しをしたい！」(注1)。

一体、何が起こっているのか。そのからくりを説明すると、沼津市はテレビアニメ『ラブライブ！サンシャイン!!』(注2)の舞台モデルであり、アニメの劇中に登場した風景を見るためにファンが足繁く沼津に通った、そしてそこに恩返しをしたいと思います、ということだ。実は、



森 裕亮

(北九州市立大学  
法学部政策科学科 准教授)

このようにアニメに登場した風景、あるいは作品に関連する場所とか風景を訪問する現象があちこちで起こっている。昨年の大ヒット映画『鬼滅の刃』で作品に関連する(とファンたちが認識した)神社などに来訪者が押し寄せたという報道は記憶に新しい。こうした現象を専門家たちは「(アニメ)聖地巡礼」と呼び称する。興味深いことは、沼津のケースでは、アニメファンが自治会の活動にボランティアとして参加しているという事実である。明らかに沼津に対してこのファンは並々ならぬ愛情を感じている。その愛から、地域貢献をしようという思いに至ったというわけである。この人物は、メッセージの書き振りから当該自治会の住民

ではなく、また年を召した人物でもないことが予測できる。筆者は、専門分野として地域コミュニティを研究してきたが、自治会の事業に区域外の人、とりわけ若い人が自ら参加するという状況は、よほどのことがない限り見聞したことがない。

## ■「よそ者」と地域づくり

このように「よそ者」が何かの契機にある場所に愛着を持ち、貢献しようという行動が過去に比べて見られるようになった。これは何もアニメの世界だけのものではない。例えば、総務省の事業である「地域おこし協力隊」はその好例だろう。これは、関心がある地域に一定期間居住して地域づくりに携わりつつ、最終的にその地への定住・定着を目指すものである。

一部の地域では実は人口増加が起きているが、多くの地方都市や農村部は人口減少という未曾有の危機に直面している。そのような地域社会の維持と活性化は、外部とのコラボが一つの鍵であることは明白だ。沼津の自治会の事例は、地域コミュニティとよそ者とのコラボ事業実践そのものである。外部の人々とどんな関係を作れるかというのは、これからの

地域づくりにおいても中心的な課題であり続ける。しかしながら、2020年から世界で猛威を振るった新型コロナウイルスは人々の物理的移動そのものを妨げる結果となった。本連載では「ウィズコロナ時代」のよそ者と地域のあり方は議論する予定だが、移住とかインターン、またワーケーションの可能性も含めて、こうしたよそ者が地域社会になぜ、そして、いかに関わろうとし、他方でこの動向に直面した地域社会側は何を実践し、また実践すべきなのか、ということは改めて議論しておく意義はある。本論では「アニメ聖地巡礼」という新しい現象を題材としながら、よそ者と地域づくりのあり方を考えていくことにしよう。

「よそ者」と聞くと、一般的に多くの人々はあまり良いイメージを浮かべないだろう。単純に言えば、外部から移動ないし漂泊してきてある集団に関わろうとする人々(注3)のことだが、その場合、彼ら・彼女らは集団には近づこうとするがあくまで「他所」の人と扱われ、仲間はずれや排除にあたりする(II「よそ者扱い」)ことが往々にしてあるからである。しかしながら、本誌の読者は「よそ者」を良い意味で捉えがちだろう。なぜなら、地

域づくりの金言「よそ者、若者、バカ者」という言葉を熟知しているからだ。

よそ者に期待する議論は、特段新しいものではない。例えば、経営学などの企業の社外取締役の議論は歴史が長い。さて、地域づくりの研究者や実践家たちは、よそ者のポジティブな面を強調してきた。そこで論じられるのは、よそ者が地域社会と関係を持つようになれば、異質な視線とアイデアを通じて、地域社会に何らかの気づきを与えたり、イノベーションを起こしたりするという点である(注4)。もちろん、よそ者と地元の人々との接触が対立や葛藤を生むこともあるが、その過程を想定しつつも、よそ者が地域づくりの中で果たせる役割の大きさが着目されてきた。

## ■関係人口への社会的期待：「風の人」の誕生

「よそ者」は、近年実は国家的課題となっていた。それは「関係人口」に国が着目していたからである。「関係人口」という言葉は、数年前以来各所で使われ、総務省や国土交通省を中心に取り上げられるようになった。総務省の研究会によると、

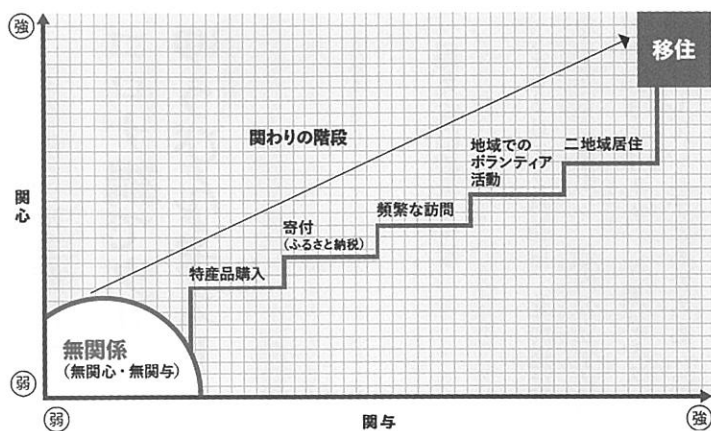


図1 関わりの階段 (注6)

「関係人口」とは「必ずしも移住という形でなくとも、特定の地域に対して想いを寄せ、継続的に関わりを持つことを通じて、貢献しようとする人々」であり、四つのタイプがあるとする。(1)その地域にルーツがある近居の人、(2)その地域にルーツがあるが遠居の人、(3)その地域に過去に居住や滞在の経験がある人、そして(4)その地域に居住や滞在経験はないが、何らかのきっかけで往来するようになった人

(「風の人」、である(注5)。厳密に言えば、関係人口は観光客である「交流人口」ではない。単に観光で消費行動をする人々ではなくて訪問地との「関係」を保つ意思を持つ人々である。

関係人口に該当する人々が作ろうとする地域との関係性は多様である。関係人口論を学問的に体系化している明治大学の小田切徳美教授が示した「関わりの階段」(図1)を参考にすれば、特産品の購入、寄付という現地に足を運ばない方法から、頻繁な訪問や地域でのボランティア活動を始めるというより積極的な関わり方もある。そして、二地域居住という居住地を複数持つ選択肢もあり得る。このように個人個人が主体的に関係の保ち方を決めることができる。

実は、かなりの人々がすでに「関係人口」である。なぜなら、他市の実家を大切に思い時々帰省するという人も関係人口だからである。さて、本論で議論したいのは、四つ目の「風の人」とそのポテンシャルである。「風の人」は様々なきっかけで生まれる。アニメ聖地巡礼の現象は、この「風の人」を全国津々浦々生み育んでいる。

(注1)「7月1日」サンシャイナリーによ

る沼津市の#千本浜清掃ボランティア活動」<https://twipla.jp/events/311730>。なお@アステリオン(2021年5月24日アクセス)。

(注2)『ラブライブ!』シリーズの第2弾として2016年7月から2期にわたって放送された。「私立浦の星女学院」を舞台に、生徒がスクールアイドル活動を始め、途中浮上した学校統廃合の回避を目指して活躍していくというストーリーである。ラブライブ!サンシャイン!!公式ウェブサイトを参照(<https://www.lovelive-anime.jp/uranohoshi/>、2021年5月24日アクセス)。

(注3) 敷田麻美(2009)「よそ者と地域づくりにおけるその役割にかんする研究」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』、第9巻、2009年。

(注4) 敷田、前掲書。

(注5) 総務省「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会 中間とりまとめ」、2017年。

(注6) 小田切徳美「関係人口」とは何か?―その背景・意義・可能性―大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所『Culture, Energy, and Life!』第123巻、2019年。